

3. ボランティアリーダー育成事業

ボランティア・NPO活動センターでは、本学の学生を対象にボランティアに関する各種講座を実施しています。入門編として、ボランティアについての基礎的な講義とボランティア体験を行う「ボランティア入門講座」、応用編として、センターを運営する学生スタッフや既にボランティア活動を行っている学生を対象に、スキルアップや組織運営の向上を目指した「ボランティアリーダー養成講座」、「ボランティアコーディネーション力3級検定」を開催しています。今年度は例年対面で行ってきた講座をオンラインに切り替えるなど、新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じて、開催方法を柔軟に検討、実施しました。

事業名	ボランティア入門講座
プレ企画	2020年7月14日(火)、17日(金)、20日(月)、22日(水) 4回実施 昼休みの30分/参加者48名
ボランティア入門講座Ⅰ	2020年8月5日(水)、6日(木) 2回実施 13時30分～14時30分/参加者75名
ボランティア入門講座Ⅱ	2020年8月24日(月) 13時30分～14時30分/参加者44名
ボランティア体験	2020年10月24日～11月7日の間に、計8ヶ所で体験を実施 /参加者48名
協力	受入団体：8団体(ボランティア体験)
実施主体	ボランティア・NPO活動センター

1. 経緯・目的

学生が何か新しいことを始めたいと感じる年度初めに、毎年本講座を実施しています。ボランティアに関心はあるけれど、活動未経験や活動経験が少ない本学学生と、ボランティア・NPO活動センターの学生スタッフ新登録者を参加対象とし、その後のボランティア活動につなげるきっかけとなることを目指しています。

今年度は前期がオンライン授業となったことから、オンライン開講のための準備を行い、例年と時期をずらして実施しました。大学に入構できないことから、まずは、ボランティア・NPO活動センターのことを知ってもらうために、30分のオンライン講座(センター紹介)をプレ企画として実施しました。そのうえで、ボランティア入門講座Ⅰとして2時間の講座を2回、大阪ボランティア協会の職員のお話を聴くボランティア入門講座Ⅱを1回開催し、オンデマンド配信も行いました。そして、後期には少人数にわかれてボランティア活動体験を行いました。

2. 概要

(1) プレ企画(約30分、4回実施)

センターの事業や各種ボランティアプログラムの紹介をオンラインで行いました。Zoomを活用して学生スタッフに各種プログラム等に参加

加した体験を語ってもらい、センターの取り組みや各種ボランティアプログラムを紹介しました。7月14日の第1回を皮切りに計4回行いました。



(2) ボランティア入門講座Ⅰ (約60分、2回実施)

Zoomを用いて、センターのボランティアコーディネーターによるボランティアの基礎的な事柄の講義を行いました。パワーポイントを使って説明し、投票やチャット機能を使って参加しやすいように工夫しました。ブレイクアウトルームに分かれて感想を共有し合うなど、受講者参加型で実施しました。



(3) ボランティア入門講座Ⅱ (約60分、1回実施) 「ボランティアって何だろう」 講師：青山織衣氏 (大阪ボランティア協会)

大阪ボランティア協会ボランティアコーディネーターの青山織衣氏を講師に迎え、今まで取り組まれたまちづくり事例やボランティア活動に対する思いなどをお話いただきました。また、同協会ボランティアスタッフの藤岡氏からは、海外でのボランティア活動の体験を語っていただきました。

上記3つのプログラムに関しては、当日参加できなかった学生に、オンデマンド配信を行いました。

(4) ボランティア体験プログラム(8か所) 3密を避けるため少人数での活動とし、屋外

の活動を多く取り入れ、感染防止対策を講じながら実施しました。オンラインの活動や医療用ガウン作り(寄付)なども取り入れました。

各体験後、引率したコーディネーターの進行で、必ずふりかえりの時間を持つようにしました。

① 学童保育での活動 10月24日(土)



受入団体：深草児童館
参加人数：午前3名、午後3名
活動内容：児童館で子どもたちと一緒に遊ぶ

② 新聞記事のデジタル化 10月24日(土)



受入団体：大阪ボランティア協会
参加人数：4名
活動内容：ボランティアに関する新聞記事のデジタル化作業(オンライン)

③ 河川の清掃活動 10月25日(日)



受入団体：山科青少年活動センター

参加人数：5名

活動内容：センター近くの河川清掃

④ 医療用ガウン作製 10月28日(水)



活動場所：龍谷大学ボランティア・NPO 活動センター（深草キャンパス）

参加人数：9名

活動内容：ポリ袋を使った医療用ガウンの作製

⑤ 医療用ガウン作製 10月29日(木)



活動場所：龍谷大学ボランティア・NPO 活動センター（瀬田キャンパス）

参加人数：5名

活動内容：ポリ袋を使った医療用ガウンの作製

作製した医療用ガウン 60 着は、後日、ボランティア体験に参加した学生からの応援メッセージとともに、守山市の社会福祉法人滋賀県障害児協会湖南ホームタウンに寄付しました。冬に向けて、職員の皆さんは感染防止に細心の注意を払っておられました。中村所長には、「本当にうれしい、励みになります。」と喜んでいただきました。



⑥ 竹林整備 10月31日(土)



受入団体：京都風緑

参加人数：7名

活動内容：竹林整備と竹チップづくり

⑦ 里山・公園整備活動 11月1日(日)



受入団体：森の風音

参加人数：8名

活動内容：森林の整備活動

⑧ 子ども食堂での活動 11月7日(土)



受入団体：NPO 法人 CASN

参加人数：4名

活動内容：子どもたちと一緒に遊ぶ

3. 受講者の声・得られた効果など

- ・プレ企画：昼休みに 30 分程度で時間もちょうどよく、説明も分かりやすかったので、参加して良かった。例年の様に大学に行って説明会に参加するよりも、家でオンラインで参加の方が参加しやすいと思った。
- ・入門講座Ⅰ：ボランティアの体験談が紹介されていて活動に対するイメージも持てる内容だったし、心構えも説明してくださったので、ボランティアへの意欲が高まった。
- ・入門講座Ⅱ：ボランティアをすることで、自分に得るものがあるだけでなく、貢献できているという実例を聞くことができたこと。実際に取り組んでおられるプログラムを詳細にお話しいただいたので、よくわかった。ボランティアの面白さも実感することができた。
- ・ボランティア体験：コロナ禍でボランティアがなかなかできなかったが、子どもたちと思いっきり体を動かすことができてとても楽しかった。やっと大学でやりたいことができた。子どもがとても元気で大変だったが、充実した経験になった。
- ・ボランティア体験：参加した人同士で、ボランティアを通して感じたことを話しあい、自分になかった視点を得られた。
- ・ボランティア体験：最初は苦戦したが、一人ではなくペアの方がいたので楽しく作業ができた。思ったよりも体力も必要で大変だったが、たくさんガウンをつくることができたのでよかった。貴重な経験になった。
- ・ボランティア体験：普段何気なく利用して

いる場所の多くはボランティアによって整備されているということに気付いた。その作業の大変さとありがたさを感じることができた。これらは実際にやってみないと感じることができなかったと思う。

- ・ボランティア体験：清掃で環境を守るだけでなく、居場所を作ることもつながっていると知って、住みやすいまちづくりのためのボランティアの必要性を感じた。

4. コーディネーター所感

コロナ禍で今までの入門講座の形では実施できないという状況になり、ボランティアコーディネーターが様々な知恵をだしあい、工夫をして実施しました。

いつもなら、センターで顔を見ながら申し込み受け付けを行い、声をかけてサポートをしていました。今年は、申し込み、受講、アンケートにいたるまで、すべてオンラインで行いました。開催する側のコーディネーターも、受講する学生もまだまだオンラインには慣れていない状況のため、申込者一人ひとりにメール等を活用して受講のためのサポートを行いました。

これまで、出会うことを大切にしていたが、ボランティア体験で初めて学生と直接出会うことができました。初めて会う学生達とのボランティア活動で、どうなることかと心配しましたが、参加学生はオンライン講座を楽しみ、ボランティア体験の中で、様々な気づきを得て、もっとやってみたい、勉強になったと感想を寄せてくれました。「誰にも会うこともなく、外に出ることもなかった期間が長かったが、外に出て活動ができて気持ち良かった」といったコロナ禍を象徴するような感想もありました。センターでは、こんな時だからこそ、だれでも、気軽に参加できるような学びや参加の機会をつくっていきたいと思います。

〈報告者：上手 礼子 / 國實 紗登美
(瀬田キャンパスコーディネーター)〉

事業名	ボランティアリーダー養成講座 「ピンチをチャンスに！柔軟な発想を生み出すスキルを学ぶ」
実施日	2020 年 9 月 14 日（月）13 時 00 分～15 時 00 分
実施形態	オンライン（Zoom ミーティング）
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター
参加人数	本学学生 32 名

1. 経緯・目的

学生スタッフやボランティア系サークル、サークル登録をしている学内サークルのメンバー等を対象に、以下の3点を目的として本講座を実施しました。

- ①新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い、活動がオンライン化している中、活動の制約があっても知恵と工夫を凝らして活動を進めている方から、オンラインでお話をお聞きする。
- ②学生同士の意見交換や、それをふまえて講師からのアドバイスをうけるなど、ワークショップの時間も設け、学生にできることを考え、動くきっかけを得る機会とする。
- ③今の社会問題について考え、視野を広げるきっかけとする。

2. 概要

講師：九州大学大学院統合新領域学府客員准教授／NPO 法人日本ファシリテーション協会フェロー
加留部貴行氏

内容：Zoom のブレイクアウトルーム機能を使って、3～4名のチームに分かれて対話を重ねる中で、実践的にファシリテーションや、オンラインでのコミュニケーションのコツをつかむことを目指しました。

対話のテーマ：

- ①コロナ禍の中であなたが学んだことは何ですか。
- ② With コロナの中でもやってみたいことは何ですか。
- ③これからあなたが踏み出したい第一歩は何ですか。

3. 受講者の声・得られた効果など

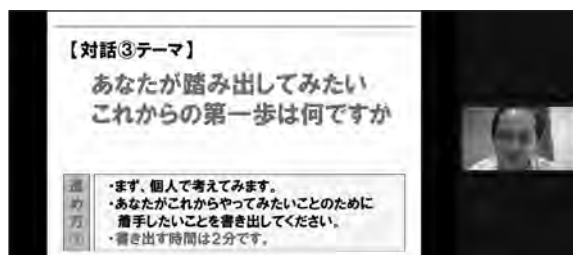
- ・友達にも会えず、学校へもまだ行けず、一日中家にいて、誰とも話さない日々だったので話し合える場を多くもうけてくださったのはとても良かったです。講座が終わった後は久しぶりに人と話して笑顔になりました。
- ・オンラインの時こそ、話し方や目線など、当たり前のことを丁寧に行うことが重要だとわかりました。今後もオンラインの機会が多いと思うので、しっかり活用していきたいです。
- ・対話する中で、おなじ学生と言っても、変化に対応している人もいれば、困っている人もいることがわかりました。対面で会えなくても、まずはオンラインのコミュニケーションから始めてみようと思いました。
- ・コロナ禍でも、自身の行動力次第でできることはあるということをたくさんの学生と交流することで気づくことができ、自分の意識を変えるきっかけとなりました。

4. コーディネーター所感

毎年、センターを運営する学生スタッフやすでにボランティア活動を行っている学生を対象に、スキルアップを目指して実施している講座です。今年度はコロナ禍の中で、学校に来ることもできず、ボランティア活動もままならない状況で、困難をチャンスととらえる前向きな気持ちをもてるようにと、この講座を実施しました。前期は授業がすべてオンラインという前代未聞の事態となり、コミュニケーションの仕方に戸惑いを覚える学生が多かったことが感想からも見て取れます。

講師の加留部氏は、オンライン講座の経験が多く、綿密な準備をした上でこの新しい形での講座をまとめていただきました。いろいろな人とたくさん話すことで得られるコミュニケーションの気づき、様々な思いをこれからの大学生活に活かして、この困難がチャンスだったと思えるようになってほしいと思います。

〈報告者：上手 礼子
(瀬田キャンパスコーディネーター)〉



事業名	ボランティアコーディネーション力3級検定 「市民の社会参加を支える“チカラ”を身につけよう！」
実施日	2020年12月19日（土）直前研修ならびに検定試験
場所	深草キャンパス 21号館101教室
実施主体	ボランティア・NPO活動センター／ 特定非営利活動法人 日本ボランティアコーディネーター協会
参加人数	学生29名、教職員1名 合計30名

1. 経緯・目的

本学学生や地域で市民活動に取り組んでいる方々が、市民活動への理解を深め、実践的な取り組みの担い手として活動できる力をつけることを目的として、特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会が主催する「ボランティアコーディネーション力3級検定直前研修並びに検定試験」を共催で実施しています。

今年度は新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑み、感染防止対策を講じたうえで、龍谷大学学生、教職員を対象として実施しました。

2. 概要

（1）当日の流れ

○直前研修

主催者挨拶およびオリエンテーション

【講義】序章 今なぜ、ボランティアコーディネーション力なのか？

【講義】1章 ボランティアの理解

【講義】2章 ボランティアコーディネーションの理解

○検定試験

（2）受験資格【年齢は問いません】

※①②③のいずれかに該当していること。

- ①これまでにボランティア活動の経験がある。
- ②これまでに地域社会、組織（施設・機関、NPOなど）においてボランティアコーディネーションに関わった経験がある。
- ③ボランティアコーディネーションに関わる予定がある。

（3）受験料

- ・本学学生：6,520円
（受講料：無料、テキスト代：2,420円、検定料4,100円）
- ・一般・その他：12,000円
（全て込みのセット価格）

（4）講師

龍谷大学社会学部教授、ボランティア・NPO活動センター長、日本ボランティア

コーディネーター協会理事

筒井のり子氏

3. 参加者の声

- ・1日でボランティア活動の歴史、NPOとの関係、コーディネーションなど、ボランティアについて幅広く学ぶことができました。社会学部で学んでいるので、これからの勉強にもいかせる内容で大変ためになりました。
- ・センターでボランティアを探しに来た学生に普段からコーディネーションをしています。先輩から教わってきたコーディネーションのコツや、気を付けるべき点が、講義により言語化されて、腑に落ちるポイントがたくさんありました。たとえば、対等な関係を作り出すというボランティアコーディネーションの機能について、これから意識しながら実践していきたいです。

4. コーディネーター所感

検定試験という性質上、オンラインで実施することが困難だったため、検討を重ねたうえでの開催となりました。感染防止対策を講じた上で受験対象を本学学生及び教職員に限定しての実施となりました。また、検定当日2週間前からの健康観察、当日の検温、講義中のこまめな換気、手指消毒を行いました。

センターの学生スタッフを中心に多くの学生から、「こんな時だからこそ、学びたい」という思いが強く感じられました。人と触れ合えない、対面で話すことができない状況で、自分に何ができるのかと、多くの人たちが思っています。アフターコロナにはまだ時間がかかるかもしれませんが、今だからこそ学び、この経験をそれぞれの将来に活かしてほしいと思います。

〈報告者：上手 礼子

（瀬田キャンパスコーディネーター）〉